



芸
能
の
発
展

大坂 甚一郎 (旭)

(湯 沢 市)

大坂氏は、国宝的芸術である義太夫が一般から遠ざかる傾向にあるのを憂い、これが振興のため昭和三年同志を糾合し、以来寢食を忘れその保存に努力してきた。

義大夫は義理と人情の美しさを強調するもので、氏は十七・八才より斯道に精進し、東北素人義太夫界の総元締として自他共に許す存在である。

昭和十七・八年の戦時中は同好の士を率い、秋田、弘前或いは仙台、山形等の陸軍病院に傷病の士を慰問し、戦後は枯渴した情操教育のためにも専ら義太夫の普及に努め人心の安定に寄与した。

今日、湯沢地方はもとより秋田県全般に亘り義太夫の気運が大いに起つてゐるのは、偏へに氏の努力によるものである。



民生の安定

菊池祐寛

(秋田市)

菊池氏は、真宗大谷派専念寺住職として社会の信望厚く、昭和二年本県に方面委員制度が布かれて以来今日まで約三十一年間方面委員、民生委員として特に宗教を通じて要保護者の精神的指導に意を注ぎ寺院本堂を開放し、これが指導に当り、信徒は勿論、近隣の要保護者から慈父の如く慕われてきた。

昭和五年には仏教寺院出身方面委員と謀り秋田上宮会を創立し代表理事となり、寺院本堂に託児所を開設し、更に翌年は養老院を開設した。

又、昭和九年上宮会を秋田就業会と合併し、秋田聖徳会を創設、養老院・保育所・母子寮等各事業部を運営、内容の充実に尽力し、現在健全なる発展を遂げつつあるがこれは一に氏の偉大なる努力に負うものであり、氏の本県民生に貢献した功績は大きい。



恙虫病の防除

寺 邑 政 徳

(大 曲 市)

寺邑氏は、大正二年三月京都医大を卒業後祖父の医業を継承、大正十四年より千葉医大緒方教授と協同し恙虫病の研究に没頭してきしたが、昭和七年現住地に恙虫研究所を設立、同年千葉医大に恙虫病研究論文を提出し博士号を附与された。

恙虫病の病原体は、昭和二年緒方博士により発見された「リケツチャ・ツツガムシ」であり、当時この罹病者は年間五十名を超え、その死亡率も昭和二十一年の一〇〇%を最高に平均五〇%を超える猛威をふるつたが、氏の研究によつて年々死亡率は低下し、昭和二十六年からは罹病者一六五人に対し死亡者は皆無という成績をあげるに至り、住民から非常なる感謝と尊敬を受け、又この研究は世界的に知られている。

氏は現在も本病の予防、撲滅に献身しているが、氏の本県保健衛生に尽した功績は大きい。



産 業 教 育 の 振 興

大 橋 良 一

(秋 田 市)

大橋氏は、明治四十五年二月秋田鉱山専門学校に赴任、以来歴代の校長を助けて四十三年間同校教授として地質・鉱物・鉱床の三科を担当し、大正三年第一期卒業生から現在に至るまで直接間接に薫育したものの五千数百名に及び、教育界に尽されたその業績はまことに大きい。

また、学問的研究として顕著なものに「男鹿半島の地質」と「黒鉱々床」があり、前者は現在日本の油田研究の基礎的資料とされ、後者は小坂、花岡両鉱山をはじめ東北地下資源開発に重要な文献である。

とくに秋田城跡附近の地質学的研究において現在の雄物川は天長七年秋田大地震の際秋田断層によつて流域を変えたものであり、以前は高清水丘陵の東方から北方を廻つて新城川附近から日本海に注いでいたもので、秋田城は川を前にした要害堅固な城であつたことを発表して文部省の史蹟に指定するところとなり、また八橋油田の研究では二十余年前その初期において石油の湧出する区域が雄物川流域より三段にずれて雁行的に東北方に向つていることを発表し、学究者として郷土の学術文化の発展に貢献した足跡はまことに顕著なものがある。



稲作の安定増収

鎌田 茂 治

(大 館 市)

鎌田氏は、明治三十四年以来二十年余寒冷地稲作の安定増収方法と蔬菜温床育苗を熱心に研究し、特に「鎌田式水稻の温床育苗法」を完成するに至り、現在の三早栽培につながる画期的育苗法として戦前から大いに普及され稲作の安定増収に多大なる実績を残した。

即ち、本県の如き寒冷地における稲作は常に不安定であることから温床育苗による栽培に着目し、研究を重ねた結果普通栽培に比し一―二割の増収という実績を得たので集団育苗を実施し健苗を育成、これを農家に分譲して奨励普及に当つた結果その普及面積は実に一千余町歩に達した。

又、一方畑作振興の面においても換金作物として有利な蔬菜の温床育苗を研究実施した結果現在における「釈迦内甘らん」の名声は全国主要市場の好評を博するに至つた。

このようにして封建的な本県農業の中にあつて不断の研究により、常に画期的農法を指導奨励し本県農業振興に寄与した功績はまことに顕著なものがある。



華道の発展

杉村キツ（月郊）

（秋田 市）

杉村氏は、大正八年東光古流（東京）家元を継承、大正九年秋田に帰り松生派を創立、以来華道に専念し現在奥華道連盟会長となつており、国内の有名華道展に代表として出品、とくに国内有名五十人展、皇太子ご盛婚記念華展には東北・北海道代表として出品し、

近く靖国神社の九十年祭にこれまた東北・北海道代表として献花する。

これまで県内各地において婦人会のいけばな講習を随時行なっているほか花道誌『はな』社の理事をつとめる等、造形いけばな、家庭いけばなを通して生活文化の向上に一生を捧げている。



文化の発展に貢献

武 埴 祐 吉

(秋 田 市)

武埴氏は、大正十二年十一月から昭和二十二年十一月まで二十余年に亘り秋田魁新報社に在籍し、秋田県の報道界および文化の発展に貢献した。又昭和二十六年四月秋田市長に就任以来八年間に亘り多難なる市政を担当し、この間全国に魁けて近接十三カ村の大合併をなしとげ、更に全国に誇るモデル都市計画と一団地官庁用地の設定、臨海工業地帯の整備拡充、総合病院、美術館の新設、秋田操車場の着工実現等大秋田市の発展に貢献した。

又、昭和三十三年三月ラジオ東北社長に就任以来民間放送の発展を通じて県民の文化向上に当るほか、現在秋田県総合美術連盟会長として斯界の進展に寄与する等秋田県の発展に貢献した功績は多大である。